

2024 年度（令和 6 年度）教育課程特例校実施状況について（自己評価・学校関係者評価）

国本女子高等学校

自己評価

項目	教員スタッフ・指導体制	カリキュラム・授業	生徒の成長	対外的情報提供	その他
現状分析・ 反省点	・常勤の外国人数員が 6 名勤務している。内、カナダ・アルバータ州の教員免許所持者が 4 名勤務しており、それぞれ、理科、数学、社会、体育、ELA を主な担当科目としており、英語による教科学習を行う態勢が完成している。 ・アルバータ州の教員免許保持者は全員日本の特別免許も保持し、アルバータ州教員が単独で英語で教科指導ができる体制を整えている。 ・英語学習ルームを設け、放課後はアルバータ州教員、JET プログラムの ALT が常駐し、生徒の質問への対応、英会話学習、英検や他の英語資格対策にあたった。カナダ・デーなど、学年を越えて、イベントを実施した。 ・各ホームルームにもアルバータ州教員が副担任として入ること、授業だけではなく日常生活からも英語を学ぶ学習環境を提供できた。	・教育課程特例校制度でイマージョン教育が可能になったことにより、高等学校の 1 年次と 2 年次で英語による教科学習（ELA, Math, Science, and Social Studies）を日本の特別免許を持ったアルバータ州教員により行っている。それにより、一つの授業を受けることで日本側とカナダ側の双方での単位認定が可能になり、日本・カナダ融合教育課程（ダブルディプロマプログラム）を実現することができた。卒業時には日本とカナダ双方の高校卒業資格を取得可能になる。 ・Project 型学習などにより、生徒の主体的な学びを行う授業展開を全教員がすべての授業で実践している。 ・海外で培った経験をさらに伸ばしつつ、日本人としてのアイデンティティを育みたい帰国生にとっても最適なカリキュラムを提供できている。	・高校段階ではほぼすべての生徒が英検 2 級以上に合格し、準 1 級や 1 級に合格している生徒もいる。 ・英語自体を学ぶことはもちろん、イマージョン教育を行うことで、英語で教科を学ぶ意識を身に着けることができた。高校 2 年次に 1 年間のアルバータ州高校留学に参加した生徒 5 名も留学開始当初から現地校の授業についていくことができ、特例校制度によるイマージョン教育の効果を実感している。 ・イマージョン教育と留学を組み合わせることにより、英語力の定着・国際性の涵養に関して最大限の効果があることを確認できた。 ・アルバータ州教員のイマージョン教育と日本の授業を両方受け、課題が重なることに負担を感じている生徒がいる。その生徒へのケアと課題の量や締切のタイミングを調整する必要がある。	・特例校の中核であるダブルディプロマコースとしては年間を通じて広報活動を行ってきた。一方、特例校としての対外的な情報発信の面ではやや欠けた面もあった。授業公開などを積極的に行っていく必要がある。 ・X、Instagram などの SNS を活用し、特例校指定を受けたイマージョン教育の授業の様子を発信した。 ・保護者には毎回の保護者会で生徒の成長の様子、特例校制度における授業の様子などを逐次、伝えた。 ・イマージョン教育の教科学習は通常の通知表に加えて、アルバータ州認定教員が生徒の学習状況を説明するレポートを作成し、保護者に周知した。	・特になし

学校関係者評価

項目	総合
意見・要望	・英語イマージョン授業を受けることで大学入試における一般選抜に対応ができるかに不安を持っている生徒がいる。 ・英語イマージョン教育を取り入れることで、授業数が増え、特に部活動に取り組んでいる生徒に負担が生じる場面もあった。 ・英語「を」学ぶこと自体を目的とせず、英語で教科学習をするためのイマージョン教育はこれからのグローバル時代に合った教育方法だと思う。 ・カナダのアルバータ州のカリキュラムによる英語イマージョン教育なので、Project 型学習など主体性を育成し、探究学習も可能になっているので良いと思う。 ・ネイティブ教員が放課後まで、質問対応や英検対策など、しっかり指導してくれていることに満足している。 ・帰国生にとって海外で培った英語力を維持できる環境が整っている。